

氏名	赤松恵美
授与した学位	博士
専門分野の名称	博士(看護学)
学位授与番号	甲第 5001 号
学位授与の日付	平成 26 年 3 月 25 日
学位授与の要件	保健学研究科 保健学専攻 (学位規則第 5 条第 1 項該当)
学位論文題目	General Malaise and Physical Symptoms in Young Women with Untouched Toe (若年女性の「浮き趾」と不定愁訴の関連)
論文審査委員	合田 典子 教授、谷垣 静子 教授、白井 喜代子 准教授

学位論文内容の要旨

「浮き趾」とは、立位時に足趾が地面に接していない状態である。本研究では、同意を得られた女子学生 200 人を対象に「浮き趾」と不定愁訴との関連を調査した。

「浮き趾」は 114 人 (57.0%) に認められ、第 5 趾が最も多かった。足底の測定値では、接地面積、接地比率以外の項目では有意差は認められなかった。

「浮き趾」の女性では不定愁訴の有症率が有意に高かった ($p < 0.05$)。「浮き趾」の女性で有意 ($p < 0.05$) に高率に見られた症状は 12 項目であり、「いらいらしやすい」「頭痛」「目の疲れ」「目のかすみ」「鼻がつまる・鼻水がでる」「月経不順・月経痛」「肩こり」「首こり」「腰痛」「手が冷える」「足のむくみ」「足が冷える」であった。

「浮き趾」と不定愁訴の種々の症状とは関連がみられた。しかし、依然として、「浮き趾」がこれらの症状を引き起こす病理的機序は解明されていない。今後、歩行の時解析等、さらなる検討が必要である。

Acta Medica Okayama (掲載予定)

キーワード: 足の冷え, 不定愁訴, 肩こり, 浮き趾, 若年女性

論文審査の結果の要旨

女子学生 200 人を対象に「浮き趾」と不定愁訴との関連を調査した。

「浮き趾」は 57% に認められ、第 5 趾に最も多く認められた。不定愁訴は「浮き趾」の対象に有意に多く認められ、高率にみられた 12 症状を明らかにした論文である。

「浮き趾」を測定時の環境や対象者の条件設定が明確にされておらず、実験研究としては課題を残すが、測定誤差を回避するため 200 人の対象を 1 人で測定するなどデータ収集に努力した跡がみられる。また、取り組んだ課題は現代の女性にとって生涯の健康管理をするためのエビデンスとなりうるものと考えられる。

審査の結果、博士(看護学)の学位を授与するに値する論文として認定することとした。